

高等部Eグループ

1 研究テーマ

相手の状況に応じた望ましいコミュニケーションスキルを身につけることができる授業づくり
～学校生活から社会生活へのスムーズな般化に向けて～

2 テーマ設定の理由

本研究グループは、高等部2学年通常の学級の生徒9名（1組5名、2組4名）で構成されている。昨年度に引き続き、今年度も同じ教室内で2学級が生活するという環境であることから、クラスの垣根を越え、生徒同士がかかわり合っている様子が見られる。多くの生徒が、自分の意見を伝えたいという思いが強く、授業場面だけでなく休み時間などにも積極的に話をしていることが多い。少人数の集団の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりするなど昨年度の学習の積み重ねから、コミュニケーション面で自分の思いを伝えることが難しい生徒に対しては、他の生徒が選択肢を設けて質問したり、手話や身振りなどを読み取ってやりとりしたりするなど、お互いにかかわり合い、理解し合う集団へと成長することができた。また、今年度の学年目標を話し合った際には、「後輩たちに優しくしたり、手本を見せたりするクラス」という意見が出されるなど、高等部の中堅となり、後輩への先輩としてのかかわり方も意識する様子が見えてくる。

一方で、「もっとかかわり合いたい」「自分の話を聞いてほしい。」という思いの強さから、一方的な話し方になる生徒や、相手の苦手な話を強調して不快感を与えてしまう生徒など、相手の状況や感情を考慮せずにかかわってしまう場面が見られる。さらには、授業内で人のかかわり方等について、望ましい行動について模範的な内容を答えることはできるものの、それを自分と対比させたり、反映させたりすることが難しい生徒が多いことが分かってきた。

そこで、今年度は、相手の状況に応じた望ましいコミュニケーションスキルの獲得について研究を行う。相手の状況を把握せずにかかわろうとしてしまう生徒が多いため、相手の立場や状況を判断してかかわる経験を積み重ねることや、少人数の集団から徐々に大きな集団へと変化させて、話をする場面を設定することで望ましいコミュニケーションの方法や手法を身につけることができるのではないかと考える。また、放課後等デイサービスや現場実習の実習先と連携を図ることで、外部の評価から自己理解を深めるだけでなく、学校生活で身につけたコミュニケーションスキルを社会生活にも般化していくことができるようになることを考え、本テーマを設定した。

3 研究仮説

○職業及び生活単元学習の中で、産業現場等における実習の事前・事後学習を通して、自己理解を深めるとともに、具体的な場面を設定したロールプレイを取り入れ、立場を変えて演じることで、かかわり方や相手の気持ちについて客観的に考えることができるようになるのではないかと。

○放課後等デイサービスや現場実習の際の実習先と連携を図ることで、他から見た自分の姿と自分が思っている自分の姿を対比させることができるのではないかと。

4 研究推進方法及び研究計画

(1) 研究推進の方法

- 職業及び生活単元学習で授業研究を行う。
- 学習内容に応じて、少人数の集団や全員での授業場面を設定する。
- 生徒が、自分の姿を客観視することができるようにするため、授業の様子をVTRで撮影するとともに、授業内で活用する。
- 産業現場等における実習の際に、実習日誌や実習評価表をもとに外部からの評価を取り入れる。
- 放課後等デイサービスを利用している生徒の場合は、面談や普段の引き継ぎの際に情報交換を行い、外部からの評価を取り入れる。
- 具体的な場面を想定したロールプレイを授業に取り入れる。

(2) 研究計画

月	研究内容
4月	グループの実態について共通理解
5月	テーマ設定、研究計画の検討及び作成 グループ検討会、指導案作成、事前研究会
6月	授業研究①（第1回校内研 代表授業）、事後研究会
7月	中間報告会準備
8月	中間報告会
9月	グループ検討会
10月	事前研究会
11月	授業研究②、事後研究会
12月	研究のまとめ（成果と課題）
1月	校内研修全体協議会準備
2月	校内研修全体協議会